

海草・海藻藻場のブルーカーボンを通じ カーボンニュートラルに貢献します

海洋生態系によって吸収・貯留される炭素はブルーカーボンと呼ばれ、陸域生態系により吸収・貯留される炭素とともに重要です。特に海洋生態系の一つである海草・海藻藻場は、炭素の吸収・貯留量の多い環境として注目を集めています。四方を海に囲まれた日本において2050年までにカーボンニュートラルを達成するためには、海草・海藻藻場における炭素の吸収・貯留量を明らかにするとともに、その保全・再生・創出に取り組む必要があります。

当社は海草・海藻藻場における炭素吸収・貯留量の推定や保全等に資するデータを提供します。

提供するサービス

◆ 調査計画を立案します

対象海域における藻場構成種群を把握し、それらの繁茂期等を考慮した調査時期を設定するほか、潜水土による目視観察や水中画像、衛星画像の解析など、調査範囲に応じた手法を検討し、最適な調査計画を立案します。

◆ 海草・海藻藻場を面的に把握します

様々な手法を組み合わせることで現地調査、解析を実施することで、海草・海藻藻場の構成種群や被度、境界線を精度よく判別し、面的な広がり詳細に把握します。

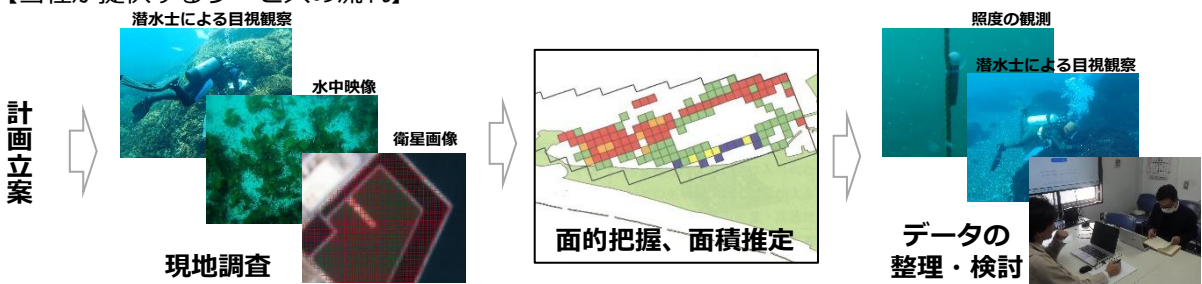
◆ 炭素の吸収・貯留量を算出します

得られた情報から分布図を作成、可視化し、海草・海藻藻場の構成種群別に面積を推定することで、炭素の吸収・貯留量を算出します。

◆ 保全・再生・創出に資するデータを提供します

海草・海藻藻場は水温や照度、栄養塩、植食性動物など周辺環境の影響を受け、常に変化します。当社は分析者自らが調査を実施することで、現地の状況を様々な視点から把握します。このようにして得られた情報から、保全・再生・創出に資する有用なデータを提供します。

【当社が提供するサービスの流れ】



関連発表・論文

輪島毅・福島明彦・有松健・伊藤永徳・豊原哲彦・吉沢忍, 2003, 東京湾藻場分布調査-盤洲干潟・富津干潟-, 株式会社日本海洋生物研究所年報2003, 7-22.

小松伸行・小海茉莉絵・藤井大樹・山崎孝史, 2019, 多摩川河川口におけるコアアマモの生育状況調査, 株式会社日本海洋生物研究所年報2019, 39-43.



株式会社 日本海洋生物研究所

MARINE BIOLOGICAL RESEARCH INSTITUTE OF JAPAN Co., Ltd.

〒142-0042 東京都品川区豊町4丁目3番16号
TEL 03-3787-2471 E-mail mbrij@mbrij.co.jp